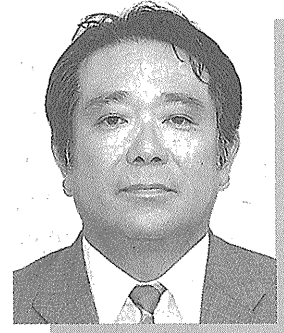


巻頭言**混迷の中で****塩 入 淑 史****喜・寂**

日本製TBM（トンネルボーリングマシン）の活躍。続発する難問に挑む技術陣。安堵と達成感。「貫通の瞬間、トンネルを吹き抜けてくる風が心地よかった」と厳しい顔が笑う。ユーロトンネル工事現場（1994年開通）（NHK TV・プロジェクトX、2001年9月18日）。

舞台は、紀元前55年8月26日、ユリウス・カエサルが、2個軍団1万のローマ兵とともに80隻の輸送船で渡り（塩野七生、「ローマ人の物語IV」より）、皇帝ナポレオンが海底トンネルを夢想したドーバー海峡である。

カエサルから2000年余。フランス人ブルネルが発明した工法をもとに、日本の技術が参加することによって人々の夢が実現。パリーロンドン間は列車で3時間となった。建設現場で物作りに参加した者だけが味わえる醍醐味。素直な喜びと誇りに満ちた笑顔。今日、この「喜びと誇り」を私たちは忘れかけていないだろうか。

怒・悲

2001年9月11日、アメリカを同時多発テロが襲った。民間航空機をハイジャックし、世界貿易センタービルなど複数の施設を、同時に攻撃するという新手のテロ戦術は、テレビでも詳細に報道された。文明の利器が大量無差別殺戮に利用され、文明の利器を通じてその生の状況が世界に流された。一般市民を巻き込んだ問答無用の残虐さは世界の反発を招き、世界の支持網を整えた米英によるアフガニスタンへの報復攻撃が開始された。

人類の歴史の積み重ねを経て培われてきたはずの文明や宗教の教えとは一体何であったのか。技術、機械などは格段に進歩してきたが、平和・隣人への愛などは、何の役にもたたなかったと言うことであろうか。

今回の事件は、世界の関わり方に関する従来のパラダイムを一変したように思われる。

混・明

国内に目を向ければ、公共事業の見直し、特殊法人の廃止・民営化論が連日メディアを賑わしている。人間の生存に必要不可欠な、国土保全、生活・産業基盤の整備がその主目的であり、我が国土・森林・農山村を維持し、戦後の社会・経済の復興と現在の生活水準の達成に貢献してきたはずの公共事業は、「その役割は終焉した。新たな公共事業やIT産業が今後の我が国の主役にならなければならない」と言われるに至った。

しかし、期待のIT産業もバブルが崩壊し、経済の回復は益々難しいようである。はたして、経済合理性だけで国土の保全はなし得るのであるか。

一方、21世紀は、「水（争い）の世紀」と言われる。国連資料によれば、世界人口は2025年には約83億人、その2/3は水不足、20億人以上が安全な水の供給を受けることが出来ない状況と予測されている。今回の報復攻撃が終了すれば、先進国による復興援助が期待されているアフガニスタンもこのような地域のひとつであろう。

世界はまさに混迷の真っ只中である。宗教、民族、貧富差などが複雑にからんだ国際テロは、今回の事件だけではなく、私たち日本人だけが極楽トンボを決めこんで居られる事ではない。上記の資料や今回の一連の報道からすると、我が国の水利用の技術がこれらの地域で必要とされる日は遠くないと感ぜられる。そのとき、技術や経営の能力ばかりでなく、相手国を含めた歴史、宗教、文化、風土に広い見識を持った者の参加が不可欠となるのではあるまいか。準備が急がれる。

この混迷の中に光明は無いのであろうか。私は、あると信じる。次代を担い得る有能な世代が続々と発言力をつけ、真摯なメディアはこれを取り上げ始めている。大いに期待したい。

最新のIT技術を駆使し、国土を守り、森を創り、得意とする物づくりを通して、日本そして世界に貢献し、現場に参加する者の特権である「あの喜びと物づくりの誇り」を共有したいものである。